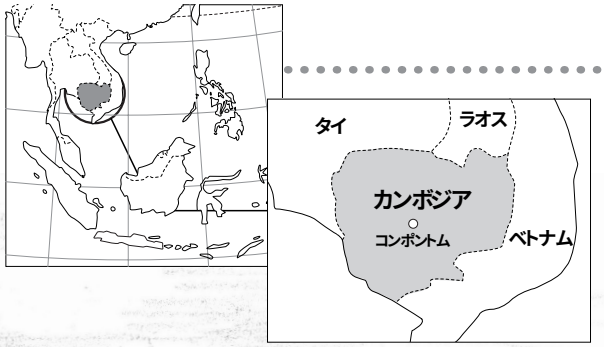
ユニセフ子ども物語
地球に生きる子どものくらし

Kingdom of Cambodia

カンボジア王国



18歳の4年生

ボンビヤットのチャレンジ

自転車がぼこぼこ道を走ります。とつぜん、ゴロゴロっとかみなりが鳴り、ごーっという音をたてて雨がふりはじめました。田植えが半分すんだ田んぼが真っ白に水しぶきをあげています。

「ひゃー、やられた」ぬれねずみになってボンビヤットは学校にかけこみました。カンボジアは雨季のまっさいちゅう。午後になると大雨がふります。でも今日はちょっと早い、まだお昼をまわったばかりです。

◆◆◆

ボンビヤットは、小学校4年生。といってもクラスでは最年長の18歳です。カンボジアでは6歳から小学校に通うことになっていますが、6歳で学校に通いはじめられる子はほんのわずか。進級試験に失敗して落第してしまう子もいます。だから、ボンビヤットのクラスにはさまざまな年齢の子どもたちがいます。

ボンビヤットは、小さいころにお寺にあずけられ、今もお寺でくらしています。そうじやせんたくなど、お寺の仕事をてつだいながら、4年生の授業がある午後、毎日自転車で学校に通ってきます。

家族は10kmはなれたとなり村で暮らしています。20歳のお兄さんは一度も学校に行ったことがありません。14歳の弟と9歳の妹も学校に通っていません。となり村には学校がなく、6年前にお父さんが病気で亡くなってからは、家族で田んぼの仕事をしないと食べていけなくなったのです。

ボンビヤットは10歳になる前に2年生まで学校に通ったことがあります。その学校は3年生までしかなく、3年生の先生はろくに授業をしなかったので、だんだんと学校には行かなくなってしまいました。

◆◆◆

もう一度ボンビヤットに“学校”のチャンスがおとずれたのは3年ほど前。村で“セッコマー”という言葉が聞かれ、だんだん村が変わりはじめたころのことでした。「セッコマーは“子どもの権利”という意味で、村をよくするための活動のことだよ」と村の委員会の人が教えてくれました。

はじめにできたのは、読み書き教室です。村の集会所をつくりかえただけのものでしたが、村のお母さんたちが仕事の合間に集まって毎日勉強するようになりました。ボンビヤットのお母さんもそうですが、村の女の人の中に読み書きできる人はあまりいません。クラスメートのポルキアの家では、お母さんが教室でならったから、と生水は飲まなくなりました。教科書には、子どもの命を守る方法、病気にならない生活の方法、栄養のある野菜を育てる菜園のつくりかたなどがたくさん書いてあるのだそうです。

そのうち、小さい子どもたちのための保育所もできました。村には野菜を育てる菜園や魚の養殖池ができ、トイレのある家が増え、井戸もできました。

学校も変わりました。6年生まで教えてくれる小学校ができ、教科書や教材もユニセフから届けられるようになったのです。17歳になろうとしていたボンビヤットは、お寺のおぼうさんに「学校の先生もしっかりしているからもう一度学校へ行ってはどうか」とすすめられました。小さい子たちにまじって勉強するのははずかしいなあ、と思いましたが、考えたあげく、学校に通う決心をしました。ボンビヤットには先生になりたいという夢があったのです。そのためにも学校に行くことは必要でした。

◆◆◆

お母さんは「学校に行っているのはあなただけだから、いっしょうけんめいがんばりなさい」と言います。ボンビヤットは、早く学校を終えてはたらきたい、そうすれば家族を楽にできる、と思います。だから、学校の勉強はなまけません。とくいな算数のテストはいつもクラスで1番になるようになりました。

今年から、家族がくらすとなり村で“セッコマー”がはじまるという知らせが届きました。ボンビヤットは、読み書き教室に行ってみたら？とお母さんにすすめてみました。「弟や妹も学校に行けるかもしれないな」そう思うと、ボンビヤットはなんだかうれしくなります。外を見ると、さっきまでの雨がうそのように、青空が広がっていました。

（文・構成：日本ユニセフ協会）

UNICEF STUDY TOUR REPORT

教育が引き出す村の力

カンボジアの「セッコマー（子どもの権利）」プログラム

人口約1300万人のカンボジアはこれまで長い間、紛争と政治不安の中にありました。1998年にポルポトが死亡し、安定した連立政権が樹立され、ようやく平和と復興への道を歩みはじめています。しかし、30年近く続いた混乱により社会構造全体が崩壊し、多くの村が保健センターや教育施設の不足、教員や保健員の不足、保健サービスや教育の質の低さといった課題を抱えています。現在、カンボジア6州の農村では、多角的な教育活動を中心に「子どもの権利」を守る村づくりを目指す「セッコマー（クメール語で子どもの権利）」と呼ばれるプログラムが実施されています。今年7月、ユニセフスタディツアーは、プログラムの対象となっている村を訪れ、活動に取り組む住民の姿と変わる村のようすを視察しました。

「セッコマー」の仕組み

「セッコマー」の事業は村レベルで実施されます。村には村落開発委員会(Village Development Committee 以下VDC)がつくられ、委員が選挙で選ばれます。（委員の半分は女性）

VDCは、ガイドラインをもとに行動計画をたてます。その領域は、識字教室や保育所の開設、図書室の設置、予防接種や栄養教室の実施、井戸やトイレの設置、家族計画、HIV/エイズに対する教育、少額融資、基礎教育の充実など多岐にわたります。その多くは、関連する知識を住民に広めることに重点が置かれ、ユニセフは行動計画に基づいた各村からの要請に従って、支援を行います。住民からの自主的な活動は、住民の力を引き出し、村全体の参加を促します。

識字教室は知識への入り口

識字教室は「セッコマー」の要です。カンボジアでは特に女性の識字率が低く、女性が知識を得られないことが、子どもの健康や教育に悪い影響を与えています。識字教室は、読み書きや計算と同時に、保健や衛生、栄養や食糧の生産などの知識を広め、各家庭において生活の改善を図る効果が期待されています。ユニセフは、識字教室の教科書を届けたり、併設されている図書室に置く本を提供したりしています。

コンポントム州ツナルバエク村の識字教室では20人のお母さんたちが教科書に書かれた「生水を飲むと病気になります。一度沸騰させた水を使いましょう」という文章を復唱していました。参加者のみなさんは口をそろえて「自分が文字を読めなかったので、子どもたちにはそうなってほしくない。ちゃんと学校に通わせています」と話してくれました。

学校にあがる前の子どもたちのケア～保育所

村では3歳から5歳までの子どもを集めて毎日2時間、保育所が開設されています。歌を歌ったり、お遊戯をしたり、子どもたちの楽しげな声が響きます。保育所での共同作業や学習活動は、学校にあがる前のよい訓練です。学校にあがってからの落第や中途退学を防ぐ効果も期待されています。

保育所の先生は、1ヶ月のトレーニングを受けた村のボランティアです。コンポントム州ツナルバエク村の保育所の先生、ポークソピアップさんは、「子どもたちは毎日変化があって楽しいです。教材のぬいぐるみは、ユニセフから届いた布を使って自分でつくりました」と話してくれました。パズルや絵本、飲み水用のバケツやコップなどもユニセフから提供されています。先生に給料は出ませんが、WFP（世界食糧計画）から毎月10kgの米が支給されています。

病気と栄養不良を防ごう

村では年3回、5歳未満の子どもたちを集めて、予防接種と発育観察、栄養指導を行う保健キャンペーンが実施されています。

発育観察は子どもの栄養不良の発見に効果的です。カンボジアでは母乳育児が広まり、生後6ヶ月までの赤ちゃんの栄養状態には問題がありません。しかし、離乳食に入ってから、食事の回数が減ったり栄養のバランスが悪かったりして栄養不良になることが多いといいます。キャンペーンの日には、政府から栄養指導員が派遣され、お母さんたちにどんな食物をどのように料理して食べさせたらよいかが伝えられています。

みんな学校へ

カンボジアの純就学率（就学対象年齢の子どもの就学率）は90%ですが、小学校1年生に入学した子どもが5年生に在籍している割合は45%にすぎません（世界子供白書2001）。カンボジアの学校では欠席しがちな児童を中心に“落第”が一般的です。また、小学校は6年生までですが、実際に6年生まで教えている学校は全体の52%にすぎず、高学年に進むに従って中途退学が増えています。

教室の増設、教員のトレーニングや待遇改善、教材の充実は教育の問題解決に不可欠です。ユニセフは教育省や地方の教育局をパートナーに基礎教育の充実を支援していますが、村では「セッコマー」も重要な役割を果たします。

「セッコマー」は、住民、VDC、学校、教員との相互の結びつきを強めることに力を入れています。地域社会が教育の大切さに注目するようになれば、子どもをきちんと学校に通わせる家庭が増えるのです。また、住民が学校の教育活動やカリキュラムについて意見を出すこともできるようになります。また、「セッコマー」による地域社会の生活改善は、直接的間接的に子どもたちが学校に通う環境を整えることにつながっています。

「セッコマー」によって村は確実に変わります。村の人びとは生き生きと将来への希望を語り、自信を持っているように見えます。村には菜園や魚の養殖池ができ、収穫が収入をもたらしはじめます。トイレを持つ家庭が増え、保健や栄養の知識が広まって、子どもの病気や栄養不良が減ります。保育所は幼児のケアを行い、学校は地域と結びつきます。今、カンボジアでは1000村で「セッコマー」が進行中です。

（写真：　日本ユニセフ協会）

カンボジア指定募金のお知らせ

ユニセフ学校募金では、「セッコマー」の一部である「教育を広めて子どもの生活を改善する」事業を指定して募金することができます。
プロジェクトの詳細については、ホームページ（http://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/bokin/bokin04.htm）でご覧になれます。
また貸し出し用の資料キットも用意しています。（お問い合わせは、学校事業部 1@03-5789-2014）